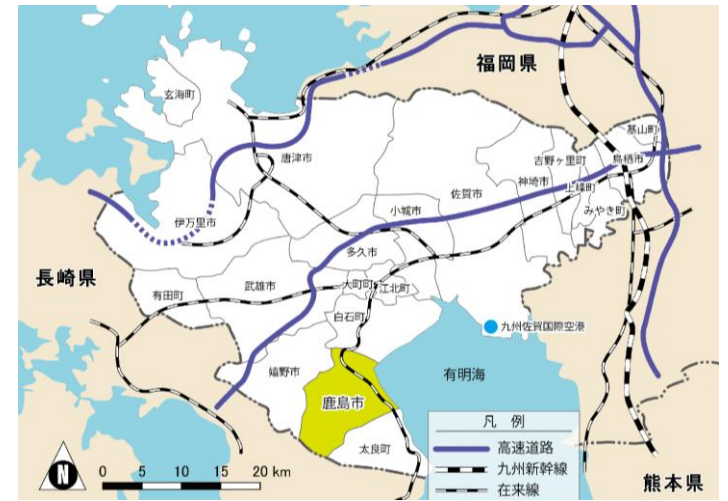


佐賀県鹿島市 市民も干潟も守る、鹿島の持続可能なグリーンインフラ事業

自治体の紹介 背景

佐賀県の南西部に位置し、南部は森林（市の面積の54%）が広がり、北部に広がる有明海の干潟の一部はラムサール条約登録湿地となっているなど、森里川海干潟に囲まれた自然豊かなまちである。

平成28年より環境省の地域循環共生圏事業の中で「ローカルSDGs」を推進。当市の環境と産業を回す仕組みづくりは、各省から高い評価を受けた。この取組の中で、脱炭素も推進し、令和4年9月「ゼロカーボンシティ推進宣言」を表明。**令和5年5月佐賀県初のSDGs未来都市に選定された。**



令和4年度 環境省「環境まちづくり賞」・国土交通省「グリーンインフラ大賞」・内閣府「地方創生SDGs金融表彰」の3冠達成

現状の課題

近年の気候危機の影響を受け、ゲリラ豪雨が多発。そのことを起因とした土砂災害や浸水、流木の被害が鹿島市内で増加している。ラムサール登録湿地である肥前鹿島干潟でも生物の繁殖期に多くの流木やゴミが流れ着き、生態系への影響が懸念される。

多発する災害に対するレジリエンスの向上が喫緊の課題。



佐賀県鹿島市 市民も干潟も守る、鹿島の持続可能なグリーンインフラ

事業の目的

- グリーンインフラを活用した防災減災、森里川海干潟での取り組みにより、流域で一体的な生態系の保全を両立させ、鹿島の環境と文化を守る暮らしを実現させる。
- グリーンインフラの取り組みを持続的に進めるため、市民・地域企業・金融機関等による地域一体の取り組みにより、環境推進事業の創出都市を目指す。

事業内容

企業のSDGsの取り組みを支援する「SDGs事業創出プラットフォーム」

企業のグリーンインフラ等の地域環境課題に寄与する取り組み・事業を行政が支援し、市全体で解決を目指す「鹿島モデル」を構築。

地域の自然資源を活用した持続可能なグリーンインフラ事業の展開

- 土砂災害や水害の軽減や耕作放棄地の利活用につなげるため、地元の酒蔵と棚田や水田の米を活用した日本酒製造
- 耕作放棄地で作った食用に適さない米や不用米をバイオマスプラスチックの原料に。
- 環境教室で米作りと酒造り、プラスチックづくりを実施



3年後の鹿島も守る酒「ごえん」

得られる
成果等

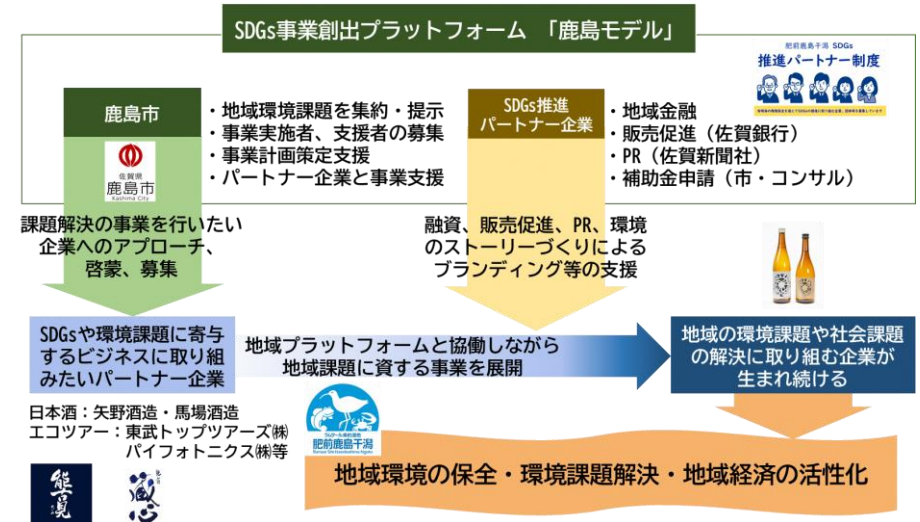
成果・解決される地域課題

- **防災減災に資する棚田面積の増加・新たな産業創出から持続可能な社会へ**
 - ・日本酒造りに加え、より広い面積の棚田の防災機能を構築するために、米を使ったバイオプラスチックを製造する企業と新たに連携を開始。ボランティアごみ袋や市内で開催されるイベント「酒蔵ツーリズム」でのおちょこを製造、プラスチック容器削減と利用棚田面積の増加に繋げ、砂防や治水効果のさらなる発揮を目指す。
- **地域金融機関との環境事業における連携**
 - ・金融機関の参画により事業が拡大。今後はESG地域金融等の展開を目指し、鹿島の自然環境に対してのストーリー性をもった投資環境を実現し、SDGs事業の発展を狙う。

企業のメリット/企業との連携イメージ

「鹿島モデル」から生み出される事業は、
「鹿島市の独自の環境評価指標により環境保全に有益であると認められた事業です。」
 ご寄附により、3年後の鹿島も守ることができ、環境評価を成果として受け取ることがます。
 また、稲作へご参加頂くと、取れた米でお酒やノベルティグッズが作れます。

寄附を
する
メリット
等



連絡先 鹿島市役所 ゼロカーボンシティ推進課 江島 美央
 電話 0954-63-3416 faX 0954-62-3717
 メール mio-ejima@city.saga-kashima.lg.jp